

装飾品 悠久の輝き

四国中央「玉」テーマ 企画展



県内で出土した縄文時代から古墳時代の「玉」をテーマに考古学の魅力を伝える企画展

縄文時代から古墳時代にかけて装飾品や副葬品として当時の人々に親しまれた「玉」をテーマとした企画展が四国中央市川之江町の市歴史考古博物館「高原ミュージアム」で開かれており、悠久の時を経てなお変わらない鮮やか

な色合いが来場者を迎えている。2026年1月11日まで。

松山市の土壇原古墳出土のガラス玉の中に金箔（きんぱく）を閉じ込めた「金箔ガラス玉」や、四国中央市の四ツ手山古墳で一括出土された「水晶性玉類」

など、普段はお目にかかれない希少な品々を含む千点以上を展示。時代の変遷による色合いや模様、材質のバリエーションの広がりや用途の派生を楽しむことができる。

学芸員の後藤寛子さん（30）は「茶色で地味なイメージが強い考古資料だが、玉は当時の人が見た色を現代でも楽しめるのが特徴。玉をきっかけに考古学に興味を持ってもらいたい」と話した。

12月20日には学芸員による解説会も予定されている。

（三津田媛琳）